



# Part 1

事業フェーズ  
「評価」

—アバディLNGプロジェクト—

## インドネシアで始まる オペレーターとしてのCSR経営の実践

豊富な天然資源に恵まれ、1966年から当社の事業活動の中核地域であり続けるインドネシア。2000年にはマセラ鉱区でアバディガス田が発見され、当社が運営する「アバディLNGプロジェクト」は当社の2大LNGプロジェクトの1つとなっています。本プロジェクトを成功に導き、持続可能性を実現するため、経済・環境・社会的パフォーマンスのバランスを取りながら事業を進めています。

### エネルギーの安定的かつ効率的な供給を目指しLNGプロジェクトを主導

豊富な天然資源を保有するインドネシアは、これまでの半世紀に続き今後も当社の事業活動の中心となります。当社グループは、アバディLNGプロジェクトをはじめとするインドネシアの上流プロジェクトに数多く参加してきました。1998年に鉱区を取得したアバディLNGプロジェクトは当社にとって最も重要なプロジェクトの1つであり、現在、シェル社とともに、各種作業を順調に進めています。

アラフラ海に位置するアバディガス田は、世界的に見ても巨大なガス田の1つです。ガス層の分布面積が1,000km<sup>2</sup>（東京23区の約1.6倍）を超えることから段階的に開発することとし、その第一次開発としてLNG生産量年間250万トン規模での開発を目指しています。

2010年12月にインドネシア政府から第一次開発計画の承認を得、2012年11月には海底生産施設を対象とする基本設計作業に着手しました。2013年1月にはフローティングLNG\*の基本設計作業を開始し、本プロジェクトは大きく前進しました。

\* フローティングLNG：洋上で天然ガスを精製・液化・貯蔵・積出を行う浮体式の生産設備

### 直接的な対話と共存・共栄関係を通じて築かれた信頼

地域社会との交流、影響分析をはじめとするステークホルダーとのかかわりは、プロジェクトの推進と地域社会とのWin-Winな関係を構築するために重要な要素となります。安定的な操業を継続していくためには、地域社会からの信頼、支持、支援が欠かせないため、安全操業の確保や地域環境への負荷を最小限にする取り組みはもちろんのこと、地域社会の自立と発展に向け積極的に協力することが必要です。

本プロジェクトでは、ステークホルダーとの継続的な対話を通じて地域社会の自立と発展にどう貢献できるかを検討し、社会貢献プログラムに反映しています。また、社会貢献プログラムの策定、実施にあたっては、インドネシア大学経済社会研究所およびパティムラ大学と協働しています。

地域社会の声を聴きながらプロジェクトを進めていくために、当社はさまざまな地域交流イベントを開催し、地域住民との関係構築に努めています。また、地域のステークホルダーとの関係をより良いものにし、互いに成長できるようたゆまぬ努力を続けています。これらの社会貢献プログラムを、IFCパフォーマンススタンダードに準拠して進めています。



インドネシアの農村での有機農法に関する教育訓練



地域住民とのダイアログの様子

## 地域の人材育成、現地当局とのかかわり、信頼の構築

操業準備の一環として、本プロジェクトでは、世界的に通用するスキルを持つ専門家を育成することを目指して地域の人材の採用、教育、能力開発を推進しています。

「数多くの方がビジネスパートナーとして参加する大規模プロジェクトでは、コミュニケーションとチームワークが最も重要です。各々がコミュニケーションをとり、自分の価値観を持ちつつ相手の価値観も尊重すること、そして個々の力を結集したチームワークが、大規模プロジェクトの成功のためには不可欠です」とジャカルタ事務所の人事部のAde Damanhuriは語ります。

プロジェクトを円滑に進めるために、当社グループの価値観を現場の従業員に共有するとともに、グローバルなCSRのガイドラインを積極的に導入するなど、人材育成に努めています。

プロジェクトは現在、「評価」フェーズにあります。生産開始に向けて、インドネシア当局をはじめ、多くのステークホルダーとのかかわりが増えるのに伴い、さまざまなCSR課題を考慮する必要があります。

プロジェクトを円滑に進める上で大切なことは、地域社会やあらゆるステークホルダーとの緊密なコミュニケーションを通じた信頼関係の構築です。当社は、アバディLNGプロジェクトがインドネシアの明るい未来の活力となるよう、あらゆるステークホルダーとの関係を深め、CSR経営の強化に努めていきます。



多様な国から集まったプロジェクトメンバー